

令和5年度小平市立小平第三中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容②実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等③知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力④様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査である。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

知識及び技能を問う問題の正答率は全国の平均より3.2ポイント高く、東京都の平均よりも2.5ポイント高い。しかし、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は全国の平均を2.6ポイント上回るが、東京都の平均を0.6ポイント下回った。

課題

全体的な正答率が低いわけではないが、文章の中心的な部分と付加的な部分についての叙述を基に捉え、要旨を把握する力が少し弱いことが分かる。また、具体的な情報と抽象的な情報との関連について理解する力が弱く、正確に文章を読んで理解する力を高めていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ① 文章を理解するために基本となる語彙力を高めるために、授業中の意味調べや短文づくりを丁寧に行う。
- ② 文学的な文章に多く触れる機会を設け、豊かな表現力を身に付けられるようにする。
- ③ 問題に対する問いの答え方や考え方に着目して、読み取る力を個に応じた指導を中心に進める。
- ④ 論理的な文章を書く力を高めるために、200字作文に取り組む時間を増やしていく。

【数学】

状況の分析

全体では全国と東京都の平均を上回り、基礎的な知識・技能を身に付けていることが分かる。しかし、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が低い。特に事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問いの正答率が全国と東京都の平均を4ポイント以上下回っている。

課題

計算問題を解く力は身に付いているが、文章題などの思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が全体的に低く、応用力が身に付いていない生徒が多い。また、最初から解かずにあきらめてしまっている生徒も多くいることも考えられる。粘り強く学習に取り組めるようにしたい。

学校で取り組む具体的な改善策

- ① 毎時間、授業内で問題演習が必ずできるように、時間を確保する。
- ② 文章題などの問題において、教員の解説を聞くだけではなく、自分で考える時間を確保して、粘り強く取り組む習慣を身に付けることができるようにする。
- ③ ICT機器などを活用し、生徒の興味・関心を伸ばしていく。

【英語】**状況の分析****課題**

全国の平均正答率を4.4ポイント上回ったが、東京都の平均正答率を2ポイント下回った。「書くこと」に関する問いの正答率が29.2%とかなり低い。また、「話すこと」の平均正答率も低く、文法を用いたコミュニケーション活動を活発に取り入れていく必要がある。

教科書以外の英文に触れる機会が少なく、初めて読む長文や、長くて情報量が多いリスニングなどに最初から苦手意識をもっている生徒が多い。学校で学んでいることについては意欲的に取り組んでいる生徒が多いので、初見の英文に対しても抵抗なく触れられるようにする必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ① 新出表現や文法を用いたコミュニケーション活動をより活発に実施する。
- ② 4技能の活動をバランスよく取り入れた授業を確立させる。
- ③ 分からなかったり、忘れてしまった語彙や表現をそのままにしてしまう生徒が多いので、小テストなどを適宜実施し、知識・技能の定着を図る。
- ④ 既習の文法や語彙を使用して、自由英作文に取り組む授業を多くする。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という問いに対して、92.7%の生徒が肯定的に捉えていた。その一方で、1日当たり、勉強のためにICT機器を30分以上使用している生徒の割合は28.6%であり、主体的に使用している生徒が多くないことが分かった。

授業中にICT機器を使用することにより、生徒が授業に主体的に参加し、学習、意欲を高めることにつながっている。しかし、家庭学習においては、なかなか結びついていない。自宅でもICT機器を活用して学習に取り組むことができる課題を学校が提示し、家庭学習の習慣を身に付けるための第一歩として活用を図る必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

本年度の研究主題は「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践 ～GIGAスクール構想に向けたICT機器の効果的活用～」である。教員同士でICT機器を活用した授業実践を紹介したり、外部講師を招いてICT機器の効果的な活用についての説明をしてもらうなど、定期的に研修会を実施している。教職員がICT機器を使いこなし、その教育的効果を高めるために必要な技術を習得することで、生徒の授業中におけるICT機器(タブレット)の使用が増え、学習を効果的に進めることができる。そして、その成果は出てきている。しかし、「主体的」という側面において、自発的にICT機器(タブレット)を活用して学習をしていないことが課題である。ICT機器(タブレット)を活用して取りくむ調べ学習や宿題を定期的に提示し、家庭学習においても日常的に活用できるようにしていく。